
私たちの祖先は、何を『神』という言葉で呼んだのか

銀河

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私たちの祖先は、何を『神』という言葉で呼んだのか

【Nコード】

N4988BA

【作者名】

銀河

【あらすじ】

このエッセイは、同人誌・図書発行時には随時削除する可能性があります。ご了承ください。

はじめに

はじめに

このプロジェクトを始動するにあたり、私は長い間自問自答してきました。

私が見ついたことを、世に問うても良いのか。
私の気がついたことはしごく単純なことです。

「私たちの祖先は、何を『神』という言葉で呼んだのか」

この問いに対する答え自体は、すでに古今東西多数の図書に記されていることであり、私の発見ではありません。上記問いが重要なことです。この問いに気がついた時、私は長年の疑問がすべて氷解しました。もしかしたら、この問い自体もすでに誰かが発見していることかもしれません。ですからこの問いも私の発見であるなどとはよもや主張しませぬ。

一見すると、別段何の変哲もない、当たり前のように見える方も多いでしょう。この問いに即答できる方もおられることでしょう。ですから、私がこの問いを大上段に掲げて、何か書物を書くことに何の意味があるのか。

それは、この問いに気が付かないが故に、悩み、苦しんでおられる多数の人たちを、想像できるからです。

私自身、いわゆる宗教書や、スピリチュアルの図書に、救済を求めてきました。それらの図書から受けた恩恵は大きなものです。ですから、救済を求める方が一人でもいるなら、恩返しの意味もあつて、この書物を世に問うことにしました。

いや、回りくどい言い方はやめて、単純に表現するなら、

「世に問えと、私の魂が囁く」
からです。

二〇二二年一月二三日 東京 秋葉原 STARBUCKS に
て

存在するすべて

存在するすべて

この書物は基本的に、私の気がついたことが書いてあります。したがって、他の書を引用して論証するつもりはありません。そもそも、読者の皆様に私の意見に賛成していただこうとも思いません。この先を読んでいただければおのずとわかりますが、私の意見は

あくまでも私一人のみのための意見

です。

しかしながら、聖書や仏典、数え切れないほど多数あるスピリチュアル系の図書に書かれていることとの関係性を示すために、ごく少数の図書から引用することがありますが、ご了承ください。

引用する図書は次の四冊です。

「聖書」（新共同訳）

「歎異抄」唯円著（蓮如書写本）

「神との対話」ニール・ドナルド・ウォルシュ著／吉田利子訳（サンマーク文庫版、サンマーク出版）

「なまけ者のさとり方」タデウス・ゴラス著／山川紘矢・亜希子訳（地湧社）

さて、この図書のタイトルである「私たちの祖先は、何を『神』という言葉で呼んだのか」についての答えは「神との対話」にこう記されています。

「『すべて』、それが神だからだ」P・114

聖書にはこう記されています。

「神はモーセに、「わたしはある。わたしはあるという者だ」と言われ、また、「イスラエルの人々にこう言うがよい。『わたしはある』という方がわたしをあなたたちに遣わされたのだと。」「出エジプト記 / 3章 14節

すなわち、私たちの祖先は「存在するすべて」を、神と呼んだのです。

この「存在するすべて」を近代科学では、アインシュタインが数学的に検討し、方程式で書き表しました。

$E = MC^2$ （全ての質量はエネルギーである）

全ての質量がエネルギー、すなわち、この宇宙の全て（質量と質量でないエネルギーの総和）がエネルギーなのです。まさにエネルギーとは「存在するすべて」なのです。

「神とは『存在するすべて』である」

このアプローチは、聖書を筆頭に、無数の書物に、さまざまな表現方法で記されているはず。おそらく読者の皆様にもさほど珍しい言説ではないでしょう。しかしながら、私たちは、

「神」

という単語自体に、たとえば、

「絶対的な超能力を持ち、自然界・人間界を左右するものと考えら

れた創造主」（新明解国語辞典第七版）

というような意味を想起してしまいます。

「絶対的な超能力を持ち、自然界・人間界を左右するものと考えられた創造主」が「存在するすべて」である。

という思考の流れでは

「存在するすべて」の存在を把握することこそが重要だ

ということに気が付きにくいのです。私がそうでした。
すなわち、

「神」という単語は単なる名詞であってまったく重要ではない。その語が指す対象、こそが重要

なのです。それが、

「存在するすべて」、「アインシュタイン流に言えば「エネルギーそのもの」

ということなのです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4988ba/>

私たちの祖先は、何を『神』という言葉で呼んだのか

2012年1月14日19時50分発行